

## 令和2年度 連携・協力事業の実施状況について

## 教員研修専門部会

## 【プロジェクト名】特別支援教育・教育相談の教員研修に関連する事業—②

## 1 プロジェクトの目的・概要

本事業②は令和元年度から「気になる子供や保護者の理解と援助プログラム」として実施している。平成30年度まで実施していた「養護教諭等教育相談力向上研修プログラム」の対象を拡大した事業である。

講義と事例検討会から構成され、実施時間は1回2時間を基本としている。前半が教育場面でも広く援用されている家族療法のいくつかのキーワードについて理解を深める講義で、後半が家族療法に依拠した事例検討である。例年検討してきた事例は、機能不全家族のケースや、精神疾患へのケアが必要な事例、発達障害への配慮が求められる事例など、保護者との連携も含め幅広かった。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止とICT活用推進の観点から、模擬クライアントとのカウンセリング場面のデモンストレーション動画を作成し、動画共有サービスを用いて配信するという方法を採用した。

なお次年度に向けた準備も兼ねており、今年度は佐賀県教育センターの所員への限定公開とした。

## 2 令和2年度の実施状況

2事例について6つの動画コンテンツを作成した。事例Aは4つの動画で構成され、事例Bは2つの動画で構成された。それぞれ20分程度の動画である。

いずれも架空事例だが、経験豊富な臨床心理士に模擬クライアント役を依頼した。

事例Aは、自閉スペクトラム症の女兒をもつ母親との面接場面である。初回導入、初回展開、初回終了と第2回全体の4つの動画で構成されている。

事例Bは、学校不適応と起立性調節障害の中学生を娘にもつ母親との面接場面である。初回序盤と初回中盤の2つの動画から構成されている。

それぞれの動画には字幕機能を用いた解説が追加されており、どのような意図のある場面なのかを読みながら、家族療法の視点を深められるようになっている。

事例A『自閉スペクトラム症の女兒をもつ母親との面接』			
1	(1) 初回導入	17分18秒	主訴の明確化まで
2	(2) 初回展開	16分38秒	解決に役立つ情報収集
3	(3) 初回終了	10分41秒	次回への接続と介入
4	(4) 第2回全体	21分42秒	変化の確認と促進
事例B『学校不適応と起立性調節障害の中学生を娘にもつ母親との面接』			
5	(1) 初回序盤	16分24秒	経過とリソースの情報収集
6	(2) 初回中盤	17分33秒	解決に向けた情報の整理

## 3 今後の予定

今年度作成した動画コンテンツはいわば事例編であり、理論編や技法編についても次年度に継続して作成していく予定である。

また、例年実施してきた対面でのプログラムも、状況をみながら再開していきたいと考えている。